

古代史教養講座 創立1995年

メール・アドレス
kys4s@jcom.zaq.ne.jp

10月5日ゼミは開催します

当日は会場の都合で、10月4日(土)ではなく、5日(日)開催となります。

装飾古墳:装飾図文(幾何学文様)の意味するもの

—10月5日ゼミ紹介文:松石 賢治会員記—

1. 装飾古墳とは何か

1-1. 装飾古墳の概要

日本(当時倭國)の古墳墓に図文装飾が施されるのは4世紀中葉(神功紀)頃に始まる。古代の人々は、人の死に接すると、復活と再生を願い、様々な儀礼・儀式を執り行った。そして、死が現実となるとそれぞれの死生観に基づいて造形された墓地・墓室に、死者を埋葬したが、遺骸を納める棺や墓室内に各種の図文を彫刻や彩色で描いた。これを装飾古墳と呼んでいる。

この古墳装飾がどの地域で、どんな図文から始まり、どのように変化・波及し、終息していったか、その図文が何を意味しているか・・・謎多くロマンを掻き立てる。

1-2. 装飾古墳として含まれないもの

例えば、古墳の地表に石人石馬や埴輪など立体造形を樹立した古墳は、装飾古墳と呼ばれない。また高松塚古墳・キトラ古墳のように中国の壁画墓と共通した彩色壁画がある古墳は、「壁画古墳」と呼んで区別される。

1-3. 装飾古墳の分布

装飾古墳は、4世紀末から6世紀末の約200年間にかけて、古墳(お墓)内部に置かれた柩や石室内部に、塗色・浮彫・線刻により各種の文様がつぎつぎと出現し描くことが流行した。これまで知られた装飾古墳の数は、全国で約600基に及んでいる。



1-4. 福岡県筑後川流域と熊本県菊池川流域の特異性

装飾古墳の約600基の半数以上が福岡県や熊本県内に多く分布し、崖等の横穴を除いて石室構造をなす古墳は、福岡県筑後川流域と熊本県菊池川流域が全国の装飾古墳の約半数を占めている。また、6世紀前葉において福岡県遠賀川流域では、玄室入口や玄室の壁面全体に壁画が施されている豪華な古墳が出現している。その他、山陰地方・近畿地方・関東地方にも点在している。

2. 装飾古墳の変遷とルーツ

装飾が施された埋葬施設・装飾図文の種類、表現法を基準に大きく3期に区分される。(柳沢教授)

装飾古墳の出現と図文の変遷

年代	先1期	1期	2期	3期
	4世紀中頃~4世紀末	4世紀末・5世紀初頭~6世紀前葉	6世紀前葉~6世紀末葉	6世紀末葉~7世紀中葉
ヤマト政権	神功・応神・仁徳紀	仁徳・履中・反正・允恭・安康・雄略・清寧・顯宗・仁賢・武烈・継体紀	體統・安閑・欽明・敏達・用明・崇峻・推古紀	推古・舒明・皇極・孝徳・斉明紀
壁画の装文場所と特長	割旗式石棺の外表面	割旗式石棺・組合せ式石棺の内外面、横穴式石室の石障・地下式横穴墓の天井面/線刻に加えて彩色画の登場	横穴式石室の壁面・横穴墓壁面と羨道外面(熊本・大分限定)	横穴式石室の壁面・横穴墓壁面/彩色画の衰退、それに代わって線刻画が主流
図文の種類	直弧文・屈曲文・円文・家屋表現の線刻・浮彫	直弧文・円文・三角文・対角線紋などの抽象文、甲冑・盾・鞍などの具象文	新たな抽象文(蕨手文など)や具象文(双脚輪纏文・船・馬)や多様な人物像、高句麗系図文	新たな具象文(樹木・木葉・鳥・魚・蟹・イルカ・亀など)と船の線刻手法の多用
地域	九州外の大坂・福井・岡山	熊本・宮崎・福岡・佐賀	鹿児島を除く九州各県	鹿児島を除く九州各県

2-1. 第1期 4世紀末～6世紀前葉

熊本南部に始まり、図文装飾部位が一気に拡大する5世紀前葉迄である。

熊本南部八代海北岸域一帯(球磨川河口)→八代海北岸域一帯(天草)→宇土半島→有明海沿岸を北上し、中部熊本平野と北部菊池川流域に拡大する。宮崎の地下式横穴墓のルーツは、有明海沿岸域で盛行した家形石棺や横口式家形石棺と想定される。国富町の本庄14号古墳に天井に朱文が出現＝天文表現か？

2-2. 第2期 6世紀前葉～6世紀末葉

大転換の時期であり、突如として、九州北部と九州外の岡山県の首長級の大型古墳の装飾図文を施した埋葬施設が出現する。石棺の内外面や石障や石屋形などに線刻・陽刻とわずかな顔料で図文を表現する。装飾手法から、埋葬施設を被覆する横穴式石室壁面への壁画系装飾へ転換する。新しい図文がつぎつぎに出現し、その後の装飾古墳の起点となり大転換として評価されている。この時期は、(筑紫勢力と吉備勢力)が高句麗との軍事的対決時にあった百済にヤマト政権が積極的に軍事支援した時期であり、横口式家形石棺は特異な構造であり、佐賀・福岡・熊本県の有明海の面した地域に限っている。

2-3. 第3期 6世紀末～7世紀中葉

6世紀末頃から彩色壁画の数が増減し、かわって線刻壁画が盛行し、7世紀中葉頃(斉明紀)衰退したといわれている期間である。

2-4. 装飾古墳の分類

考古学的な分析対象とした小林行雄教授は、埋葬施設を次の4分類を挙げ、現在まで受け継がれている。

①壁画系

石室の壁面に彩色もしくは線刻の文様や絵画を描いたもの。

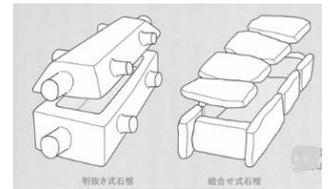
②石障(槨壁・槨障)系

石室の周壁下面にそって、浮彫ないし線刻の装飾を行った板状の石材を組み合わせでたて、壁面の装飾に代用される。

③石棺系

石室内に安置した石棺の外面あるいは内面に装飾を施したもの(浮彫・線刻である場合にも装

飾古墳に含めるのは日本の特殊な習慣)石棺が前面に広い開口部を持った形式になる石屋形に構造変化する。石棺には、次のような刳抜き式石棺と組合せ石棺がある。



④横穴系装飾

自然の崖面を利用して、岩石を削り貫いて墓室を作った形式：横穴式、主として入口の上部に近い外部の崖面に、浮彫の装飾をしたもの。横穴内部にも、彩色や線刻を行ったものもある。

3. 装飾文様の分類と主な幾何学文様

3-1. 壁画に描かれた文様の分類

装飾の文様要素を仮に大別すると、(1)幾何学文様と(2)器物の図形と(3)人物鳥獣の像など3種類に分類できる。これらの3種の要素は独立して用いられるのではなく、組み合わせて用いられている。

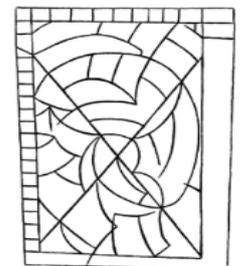
今日のゼミでは、(1)幾何学文様について紹介するとともに、それぞれの文様が意味するものを考察する。

3-2. 主な幾何学文様について

幾何学文様には、①直弧文、②渦文、③三角文、④円文、⑤双脚輪状文などがある。

①直弧文

「直弧文」という名称は「直線及び弧線の結合より成る一種の幾何学的模様」という意味を簡略したものである。1916



年から浜田耕作教授が調査した熊本：井寺古墳の横穴式石室石障に線刻された図文に着けられた名称による。「直弧文」は一定の幅をもった帯の組み合わせを表現した文様であり、鍵手文とともに、一定の幅を持った帯の組み合わせを表現した文様で、直弧文と鍵手文は石棺や石障に彫刻され、彩色を施すものもある。直弧文は、図文の複雑さから様々な研究が提出されてきたが、図文のルーツについてその後の研究の深化により、ようやく目途が立ちつつある。重要なヒントは、以下の遺跡にあった。

●奈良桜井市：纏向石塚古墳の周溝から出土した弧文円板（右図）

●岡山倉敷市：楯築墳丘

墓上の神社に保管されて



いた通称「亀石」と呼ばれる弧帯文石

弧文円板は「甲形」と「乙形」の2つの現単位図形が複雑に重なるように表現されている。また、楯築の弧帯文石の刻まれた図文は包帯状の帯が複雑に折り返しながら石全体を覆うように表現されている。

②渦文（蕨手文）

「渦文」は渦巻状に線で円を描いた図文である。

九州には少ない。福島など東北南部の装飾古墳に多い。何を表現したのか不明。蕨手文は渦文の1種である。渦文の巻き込みが少なく、その外周線が一方に直線的に伸びた形であり、彩色を伴い2個を並置して描くことが多い。

蕨手文



(日の岡古墳)



渦巻の遺存「四軒子」(香取)

新羅鏡甲の渦巻文（加那連神社蔵）

（単なる落書きではない）いったいこれは、何を意味するのであろうか。単なる水・海の渦巻あるいは波浪を意味しているのだろうか・・・。

意味するものをゼミでは、いくつか挙げてみたい。

③三角文（連続三角文・鋸歯文）

「三角文」は、主として彩画の場合に用いられる文様で、連続して使用されている。この図文はどのような意味を持って表されているのだろうか・・・。

三角文



(日の岡古墳)

熊本：千金甲1号墳に手がかりが見てとれる。



靱の列には対角線を引いた長方形が上下2段に表



されている。この対角線を引いた長方形とは何であろうか。長方形に対角線を引き、その交点からコンパスを何度も回転させながら、弧状の図形を展開しようとしていた。すなわち直弧

文を描こうとして靱に変更した。靱は古墳の外から来る邪が被葬者の眠る空間に侵入することを拒むという意味を持っている。図面変更前の直弧文も結界を張り巡らせて、内外の生き来を遮断する図文であった。

④円文

「円文」には、半径の異なる円をいくつか重ねた同心円文と単色に塗りつぶした円文がある。三角文・直弧文と共に、



(重定古墳)

もっとも古くから用いられた図文である。この図文の意味しているものを探してみる。

これは、古くから太陽あるいは鏡を象ったものと考えられていた。

鏡は太陽光を反射する道具である。前期古墳時代（3～4世紀）の有力者層が埋葬され



た古墳に副葬される三角神獣鏡は、威信財としての青銅鏡の副葬が一般的であり、邪馬台国女王が賜下された鏡の大論争で、つとに有名となった鏡である。

面径は20cm程度であり、ほとんどが凸面鏡であり、縁の断面は三角形。外区に、鋸歯文・複線波紋・鋸歯文帯からなる。

⑤双脚輪状文

「双脚輪状文」は、突起を持つ2つの輪に2つの脚が反対方向に跳ねた形の不思議な文様である。



この文様は、6世紀中頃から6世紀末までに限られている。九州では壁画として描かれ、本州では形象埴輪の文様として描かれ、何らかの呪術祭祀に用いられたとも考えられる謎多き文様である。

九州で双脚輪状文が確認された古墳は、福岡県の2基（王塚古墳・弘化谷古墳）と熊本県の2基（釜尾古墳・横山古墳）であり、佐賀県に1基（田代太田古墳）に近似するものがある。東日本では見つからない。類例の少ない不思議な図文である。ゼミでは、加藤俊平氏のスイジガイ説を中心に考察していく。

3-3. ヤマト政権：紀氏一族との関連性

①<紀氏一族>について

<紀氏一族>は、大和平群県紀里を本拠とした古代豪族であり、武内宿禰の子紀角を始祖とするが、母方は紀伊国造家の出自である。平安期の紀貫之が有名であるが、早くから武門の家柄としてヤマト政権に仕え、応神紀・雄略・顕宗・欽明紀に朝鮮半島での軍事・外交に活躍した一族である。

②和歌山井辺：八幡山古墳埴輪⇒王塚古墳の関係

興味深いのは、双脚輪状文を描いた装飾古墳の横穴式石室がいずれも石屋形を設置していることである。双脚輪状文形埴輪をモデルとした図文が描かれた王塚古墳。和歌山：岩橋千塚古墳群との関係である。

岩橋千塚古墳群はヤマト政権の中で対外交渉に重要な役割を果たした<紀氏一族>の奥津城と想定されている。5世紀末に「岩橋型」と言われる独特な横穴式石室を案出し、6世紀初頭には玄室奥壁に石棚を架構するなど独創的な石室を創出した。

九州における石棚の例は、筑後川流域の日岡古墳、遠賀川流域の王塚古墳にみられる。

王塚古墳に描かれた双脚輪状文と玄室奥壁に架構された石棚は、岩橋千塚古墳群から導入されたものであろう。

③<紀氏一族>朝鮮半島：軍事・外交（日本書紀から）

[392年：応神紀3年3月]

紀角宿禰ら4名を百済へ派遣し、辰斯王を詰問。辰斯王殺され、阿花王が立つ。

[466年：雄略紀9年3月]

新羅征討のため、紀小弓宿禰・蘇我韓子宿禰・大伴談連・子鹿火宿禰らら4卿を大将に任じて、渡海させた。進撃・奮戦し平らげたが、現地で病死した。

[466年：雄略紀9年5月]

紀小弓宿禰の子紀大磐宿禰は、父の死亡を聞き、新羅へ行き、小鹿火宿禰の兵馬・船官と諸小官を奪い、また韓子宿禰とも隙間ができ、互いに仲たがいし、百済王宮に至らないで引き返すことになった。

大將軍紀小弓宿禰は、天皇命により土師連小鳥に淡輪邑に墓を造り葬らせた。

《参考文献》

- ・第38回ふるさとの歴史を訪ねて久留米教育委員会
- ・装飾古墳 小林行雄 平凡社
- ・装飾古墳ガイドブック 柳沢一男 新泉社
- ・双脚輪状文の伝播と古代氏族 加藤俊平 同成社
- ・筑紫君磐井と磐井の乱 柳沢一男新泉社
- ・装飾古墳と海の交流 稲田健一 新泉社
- ・装飾古墳の謎 河野一隆 文春新書
- ・装飾古墳について 和田晴吾 装飾グループ資料
- ・船の乗る馬 甲元眞之
- ・馬の文化と船の文化 福永光司 人文書院
- ・日本書紀上/下 宇治谷猛 講談社学術文庫

以上

ゼミ会場と時間 13:15～16:50

- 1、全水道会館(水道橋駅)・中会議室(5階)
- 2、JR又は都営三田線水道橋駅下車徒歩2分
都営三田線水道橋駅はエレベータ使用可。
- 3、会議室への入場は、受付以外の方は13時頃
をお願いします。

11月1日(土)ゼミ・テーマ

九州王国(倭国)、出雲王国、大和王国の盛衰

—増田 修作会員—

以上。